



栃木県公共事業再評価 概要書

【県土整備部 河川事業】

事業名	安全な川づくり事業
事業箇所	一級河川 巴波川 L=9,200m しもかわらだ 小山市下河原田地先～ ぬまわだちょう 栃木市沼和田町地先
事業主体	栃木県
事業担当課	県土整備部 河川課

I 事業の概要

【目的】

一級河川巴波川は、栃木市西方町本城地先の思川小倉堰の分水を源として栃木市及び小山市を流下し渡良瀬遊水地に合流する流域面積 $A=218\text{km}^2$ 、管理延長 $L=16.3\text{km}$ の河川である。

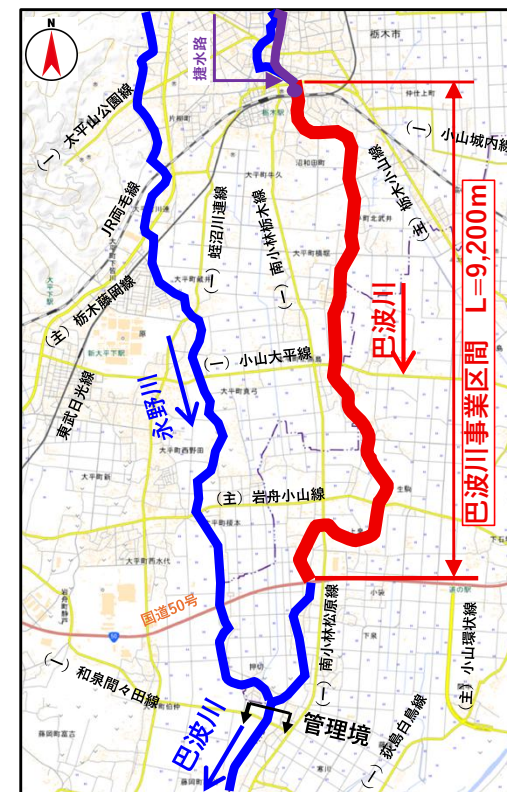
令和元年東日本台風の出水により、栃木市街地で2,213戸（床上1,217戸、床下996戸）の浸水被害が発生している。

本事業は、上流の河川激甚災害対策特別緊急事業と一体となった整備を進めるため、河道掘削、築堤盛土、堰改築等を実施することで、浸水被害の軽減を図るものである。

【現況】

目標事業期間 （変更前）	令和4年度～令和13年度 （令和4年度～令和13年度）											
事業経過	令和4年度	事業化・工事着手										
	令和5年度	用地取得着手										
	令和8年度	事業再評価（今回）										
全体事業費 [うち用地補償費]	36.1（22.1）億円 [1.0（ 1.0）億円] ※（ ）は前回計画時											
事業延長 [うち整備済延長]	L = 9,200m [L = 4,035m]											
進捗率	基準年次：【令和8年度末時点】 <table><tr><td></td><td>費用</td><td>進捗率</td></tr><tr><td>既投事業費</td><td>22.1億円</td><td>61%</td></tr><tr><td>[うち用地補償費</td><td>1.0億円</td><td>100%]</td></tr></table>				費用	進捗率	既投事業費	22.1億円	61%	[うち用地補償費	1.0億円	100%]
	費用	進捗率										
既投事業費	22.1億円	61%										
[うち用地補償費	1.0億円	100%]										

【事業概要図】

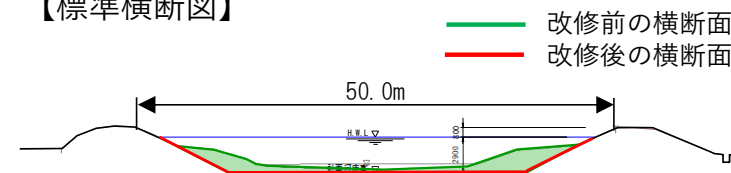


出水状況（令和元年東日本台風）

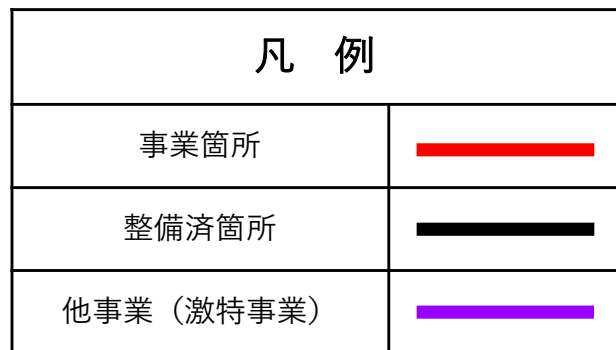


- 計画規模：1/30確率
- 計画流量：150、220 m^3/s
- 河床勾配：1/1,500

【標準横断面図】



【箇所概要】



II 事業の評価

【今後の事業進捗の見込み】

- ・総事業費の見直し
22.1億円 ⇒ 36.1億円

【全体事業費の見直し】

		前回計画 (R3年度)	今回計画
	事業費	22.1億円	⇒ 36.1億円 (+ 14.0億円)
内	工事費	21.1億円	⇒ 35.1億円 (+ 14.0億円)
訳	用地補償費	1.0億円	⇒ 1.0億円 (+ 0.0億円)

【事業の投資効果】

1 費用対効果分析結果

	B/C	総便益(B)	総費用(C)
(1)事業全体	2.6	90.5億円	35.0億円
(2)残事業	5.4	68.8億円	12.8億円

2 事業の整備効果等

- ・計画規模 1 / 30 の降雨で想定される宅地や道路、農地の浸水被害が解消される。
- ・河川断面の拡大による河岸・水際部の整備にあたっては、現況の瀬や淵を極力保全するとともに、水際部に植生が繁茂できるように配慮し、生物の生息・生育・繁殖環境を保全する。

II 事業の評価

【事業の進捗状況等】

※令和8年度末時点

1 事業の進捗状況

全体事業進捗率	66%
用地	100%
工事	63%

2 今後の事業進捗の見込み

- ・工事を推進し、令和13年度を目標に事業完了を図る。

鹿島堰上流（河道掘削）

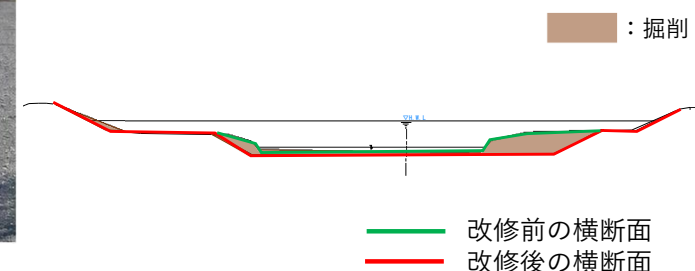
整備前



整備後



横断面図



【コスト縮減等】

1 コスト縮減方策

- ・河川の掘削土砂を築堤材として活用し、コストの縮減を図る。
- ・他事業と調整し、建設発生土の事業間連携を図る。

2 代替案立案等の可能性

- ・代替案として遊水地等を整備することが考えられるが、工事に要するコスト等を考慮すると本計画が最適である。また、河川整備に必要な事業用地は100%買収済みである。

【事業の対応方針（案）】

- ・本計画で事業を継続する。